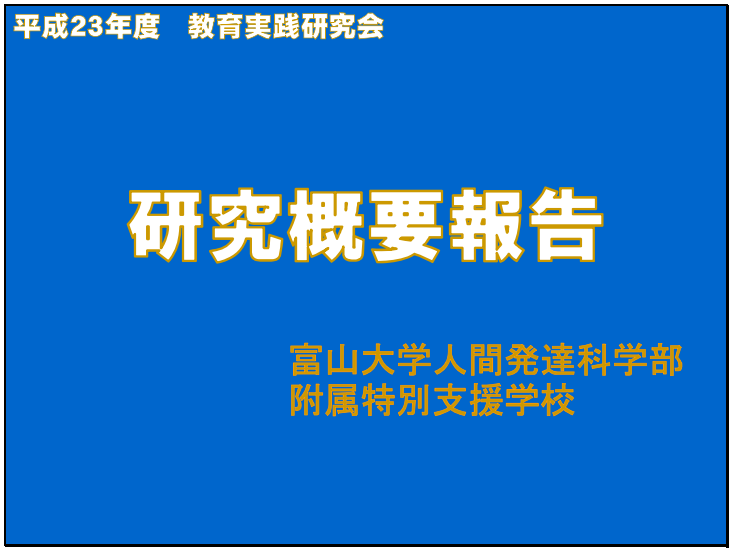
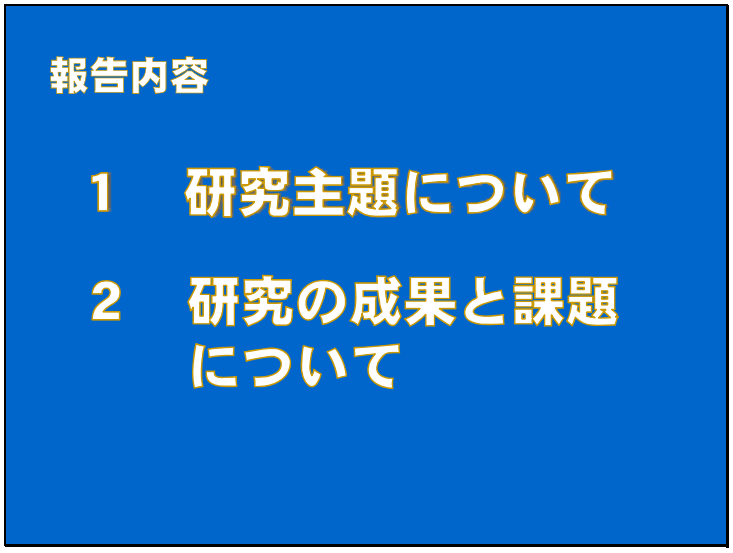
スライド 1



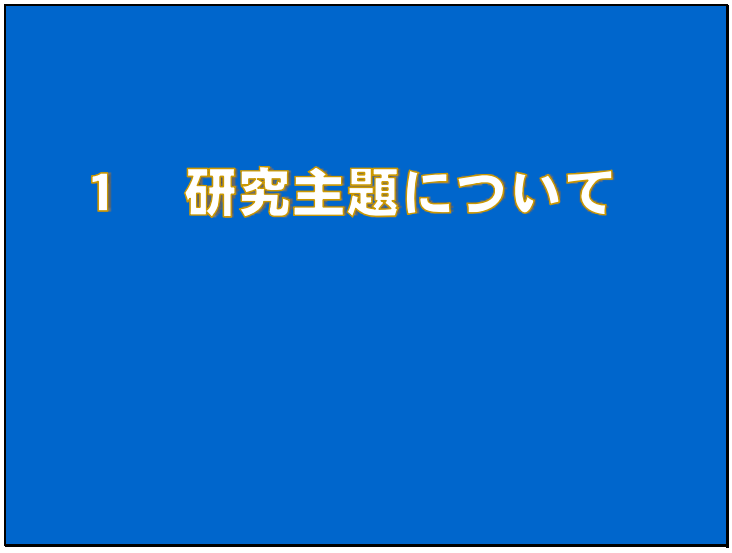
ただいまより、
研究概要について報告します。

スライド 2



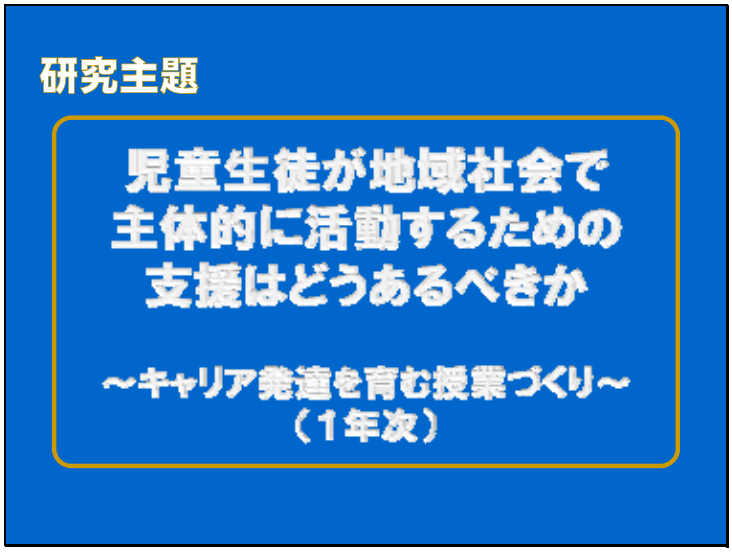
本日の報告内容は
１　研究主題について
２　研究の成果と課題についてです。

スライド 3



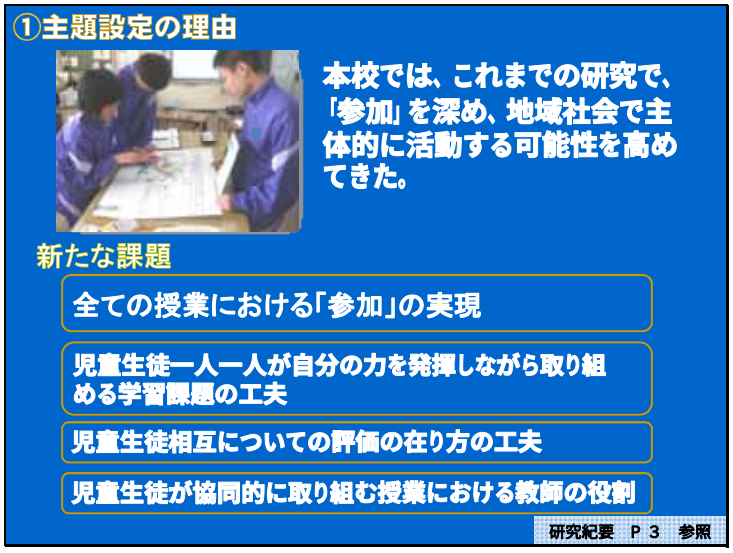
それでは、
１　研究主題について
報告します。

スライド 4



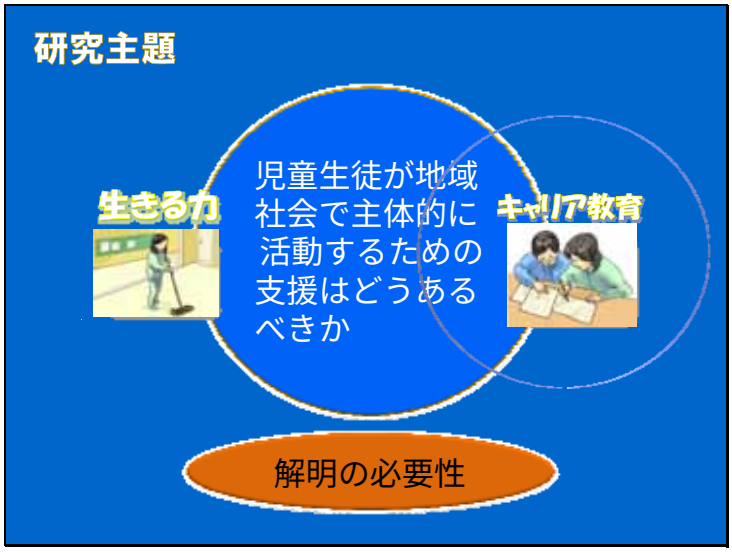
今年度の研究主題は
児童生徒が地域社会で主体的に
　活動するための支援はどうあるべきか
　　～キャリア発達を育む授業づくり～
としました。今年度は2年計画の１年次です。

スライド 5



始めに、主題設定の理由についてです。
本校では、これまでの研究で「参加」を深め、地域社会で主体的に活動する可能性を高めてきました。
しかし、すべての授業における「参加」の実現については、まだ十分に達成されたとは言えません。
また、研究の中で、
＜児童生徒一人一人が自分の力を発揮しながら取り組める学習課題の工夫＞
＜児童生徒相互についての評価の在り方の工夫＞
＜児童生徒が協同的に取り組む授業における教師の役割＞
このような新たな課題も見えてきました。

スライド 6

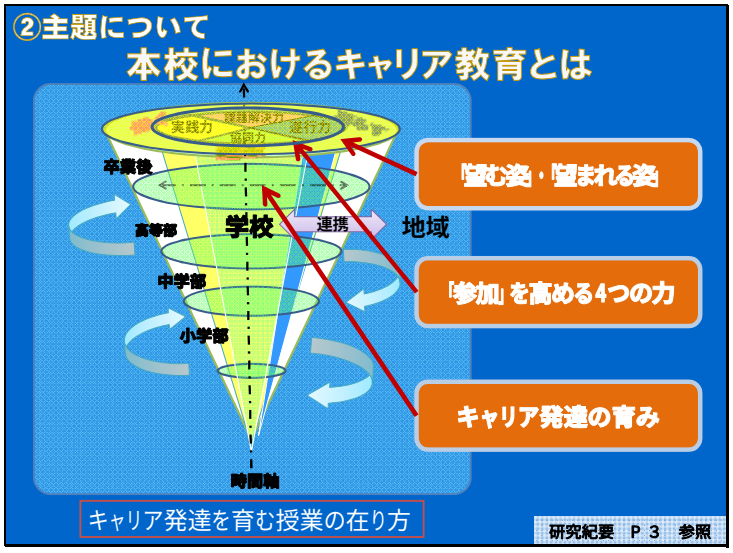


そこで、昨年度から引き続き同じ研究主題を設定しました。
平成２３年度４月から全面実施された新学習指導要領の理念である
「生きる力」を育むこと、また推進が強く求められている、
キャリア教育にも合致したものであり、
ますます解明の必要性が高まっていると考えるからです。

スライド 7

さらに、
今年度からの研究では、副題を「キャリア発達を育む授業づくり」とし、
キャリア教育の視点を取り入れた授業づくりに取り組むことにしました。
キャリア教育のフィルターを通して、これまでの本校の取組を見直すことで、
キャリア発達が育まれ、生活の質が向上し、児童生徒の将来の社会参加の可能性が広がると考えます。

スライド 8

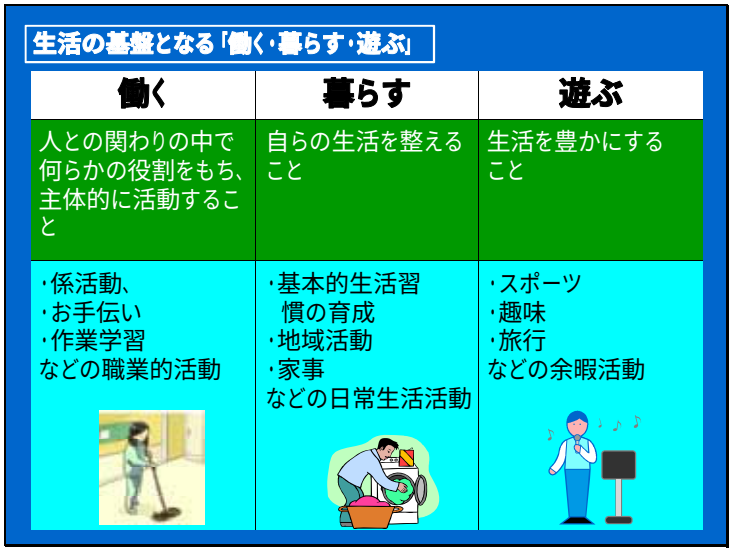


次に
本校のキャリア教育の捉えを
キャリア発達を育む授業の在り方の図から説明します。
この円すいは、キャリア発達を育む授業の在り方
を表しています。
このように　本校におけるキャリア教育は
①「望む姿」・「望まれる姿」を目指し
②「参加」を高める４つの力を養い
③キャリア発達を育む
ことと考えます。
次に、①　望む姿・望まれる姿について、指導目標の立案から、説明します。

スライド 9

まず、
児童生徒は、「自分は、どんな姿になりたいのか。」また、
教師と保護者は、「どんな姿に育ってほしいのか。」を考えます。
児童生徒が、なりたい姿を思い描き、その夢に向かって前向きに取り組むためには
「本人が望む姿」を大切にしなければいけません。
しかし、同時に社会の一員として生き生きと生活するためには、
「周りから望まれる姿」を知ることもまた大切であると考えています。

スライド 10

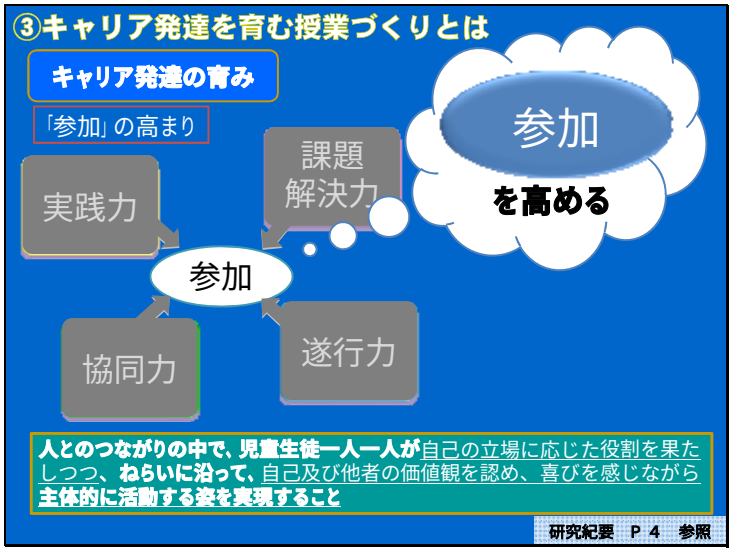


本校ではこれまでに、地域社会で児童生徒が主体的に活動するために、生活の基盤となる
「働く・暮らす・遊ぶ」ことに焦点を当てて、個別の教育支援計画を作成してきました。
働くとは、人との関わりの中で何らかの役割をもち、主体的に活動すること、
暮らすとは、自らの生活を整えること、
遊ぶとは、生活を豊かにすることを指します。

スライド 11

これらのことは、
新学習指導要領の理念である
「生きる力」を身に付けることと大きく関連しており、
また、キャリア教育を取り入れる上で重要な視点であると考えられます。
このように、望む姿、望まれる姿を目指し、「働く・暮らす・遊ぶ」の３つの柱を基に、
個別の教育支援計画や個別の指導計画と関連させながら「参加」を高める授業づくりの在り方を具体化します。

スライド 12



次に、本校が目指す、キャリア発達を育む授業づくりについて説明します。
これまでの本校の取組の中で、最も大切にしてきたものは、
「参加」の視点です。
そして、この参加を高めることで、キャリア発達が育まれると考えます。

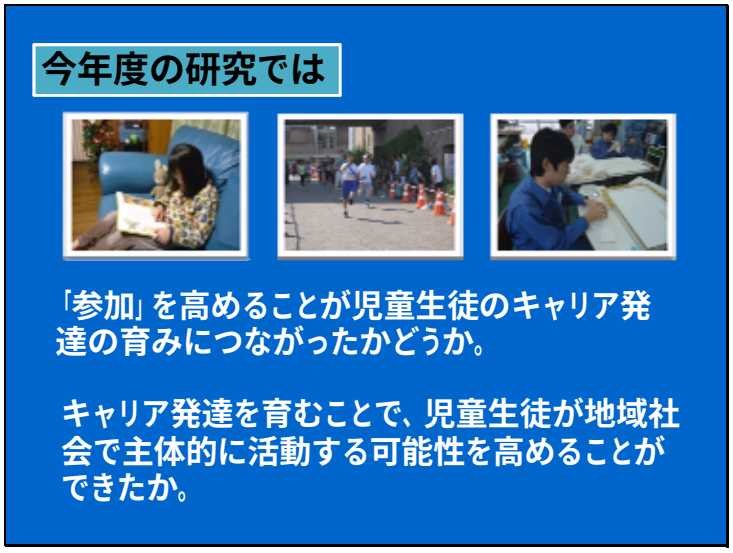
「キャリア教育における『参加』を高める」を
人とのつながりの中で、児童生徒一人一人が自己の立場に応じた役割を果たしつつ、ねらいに沿って、自己及び他者の価値観を認め、喜びを感じながら、主体的に活動する姿を実現すること

と考えています。
そして、この「参加」を高めるために、必要な力として、本校の過去の研究を基に
４つの力を考えました。

スライド 13

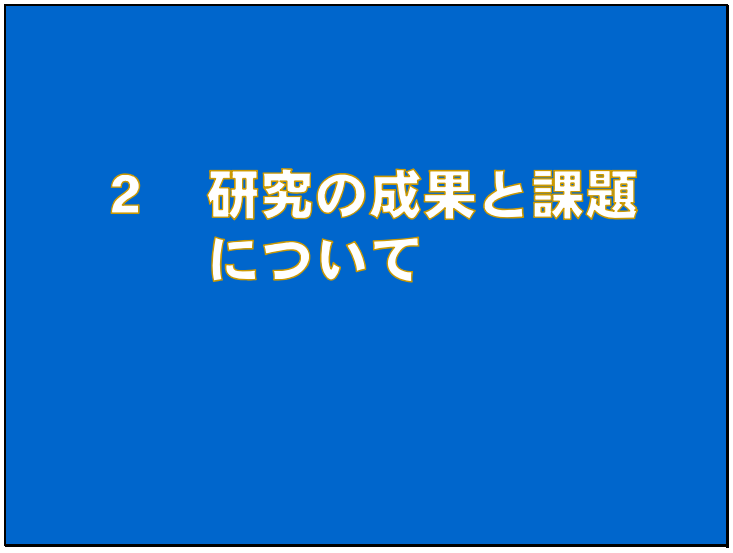
本校で考える「参加」を高める４つの力とは、
実践力、課題解決力、協同力、遂行力の４つです。
具体的には、・実践力とは、自主性・主体性、目標設定などを示します。
課題解決力とは、前向きな課題への取組、自己選択・自己決定などを示します。
協同力とは、社会性・社会的技能、情報活用などを示します。
遂行力とは、責任感、生きがい、やりがいなどを示します。
また、これら４つの力を支えるものとして、これまでの研究で取り組んできた、支援ツール・支援環境の工夫、支援者間の連携、学習プロセスの工夫があります。

スライド 14



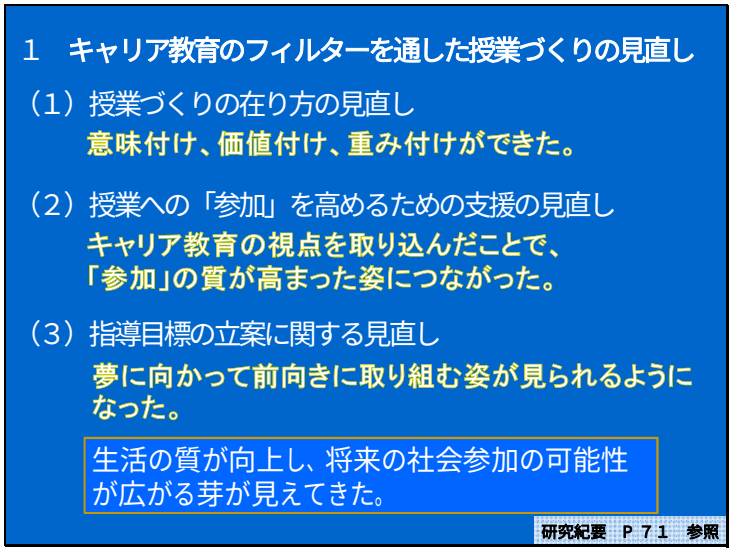
今年度の研究では、「参加」を高めることが児童生徒のキャリア発達の育みにつな
がったかどうかを検証していきます。
さらに、キャリア発達を育むことで、児童生徒が地域社会で主体的に活動する
可能性を高めることができたかを考えていきます。

スライド 15



次に研究の成果と課題についてです。
今年度の研究の中で明らかになったことを説明します。

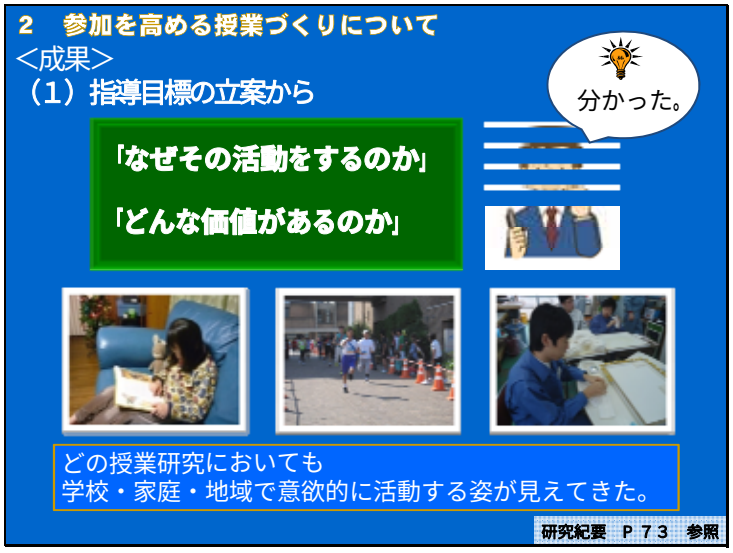
スライド 16



一つ目は、キャリア教育のフィルターを通した授業づくりの見直し　についてです。
今年度の研究では、
「キャリア教育のフィルターを通して、昨年度までの取組を見直しました。
（１）授業づくりの在り方の見直しでは、
本校の取組を整理することで、児童生徒の活動の意味付け、価値付け、重み付けを行うことができ、今後の授業づくりに向けて教員の共通理解を図ることができました。
（２）授業への「参加」を高めるための支援の見直しでは、
キャリア教育の視点を取り込み、「参加」の質が高まった姿につながりました。
（３）指導目標の立案に関する見直しでは、
望む姿・望まれる姿を考慮することで、児童生徒が夢に向かって前向きに取り組む姿が見られるようになってきました。

これまでの本校の取組を見直し、各学部の授業研究を重ねることで、
児童生徒のキャリア発達が育まれ、生活の質が向上し、将来の社会参加の可能性が広がる芽が見えてきました。

スライド 17



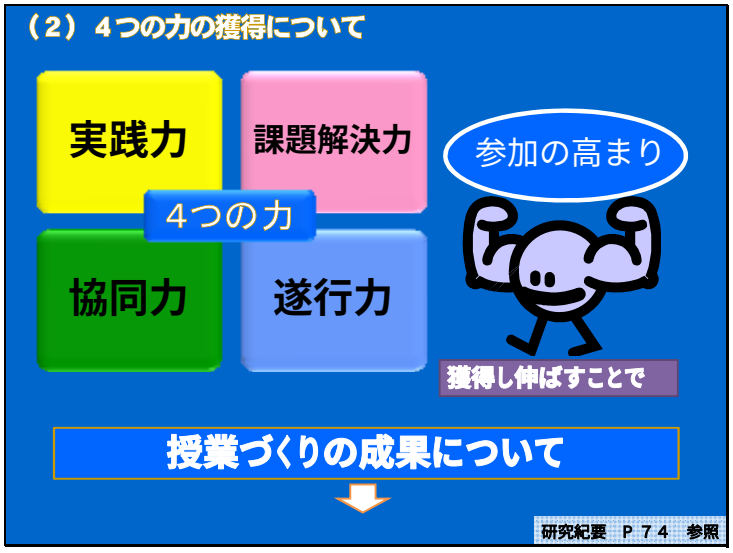
次に指導目標の立案からです。

指導目標の立案において、
「なぜその活動をするのか」「その活動にどんな価値があるのか」などを
児童生徒が理解することはとても重要な要素となります。
そのため本年度は児童生徒が自らの活動の意味や価値を理解できるように学習課題を工夫してきました。
その結果、どの学部の授業研究においても学校・家庭・地域で意欲的に活動する姿が見えてきました。

スライド 18

小学部　国語科では、
「絵本を読みたい」などの「望む姿」と、
公共施設を適切に利用するなどの「望まれる姿」を踏まえて、
文字情報を活用できる力を目標に設定したことで、
文字が読めるようになり、
家庭で絵本を読む姿につながりました。

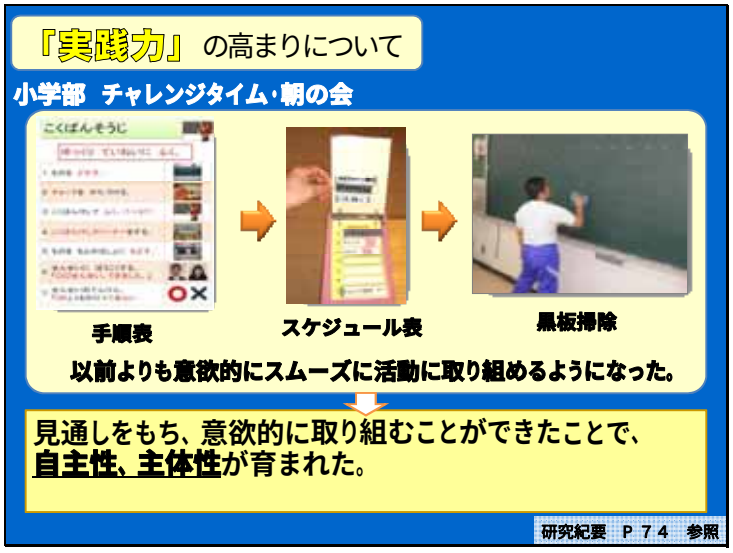
スライド 19



次に4つの力の獲得についてです。
参加を高める４つの力を獲得し伸ばすことで、
参加の高まりが見えてきました。

それでは、各学部の授業研究から、４つの力を獲得し伸ばしたことによる
授業づくりの成果について報告します。

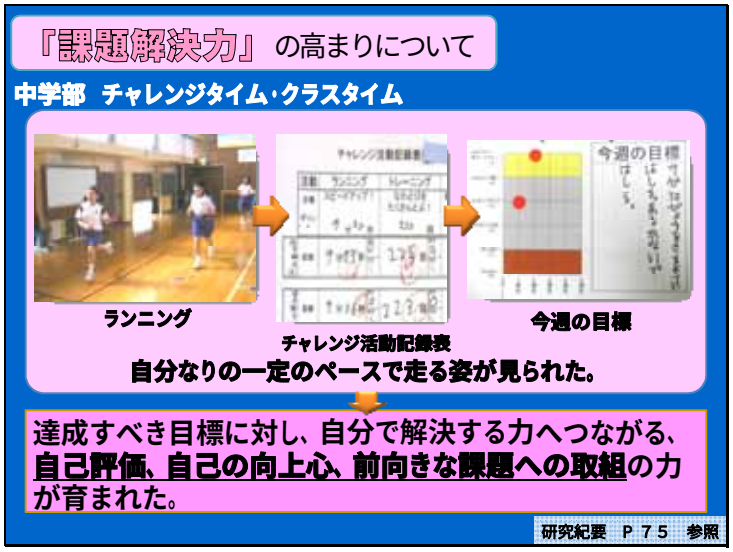
スライド 20



まず自ら実践しようとする力「実践力」の高まりについてです。

小学部チャレンジタイム・朝の会では、
活動の手順やポイントを分かりやすく提示し、
活動の前に自分で順番を決めてから行う機会を設定することで、
以前よりも意欲的にスムーズに活動に取り組めるようになりました。
見通しをもち、意欲的に取り組むことができたことで、自主性、主体性が育まれたと考えます。

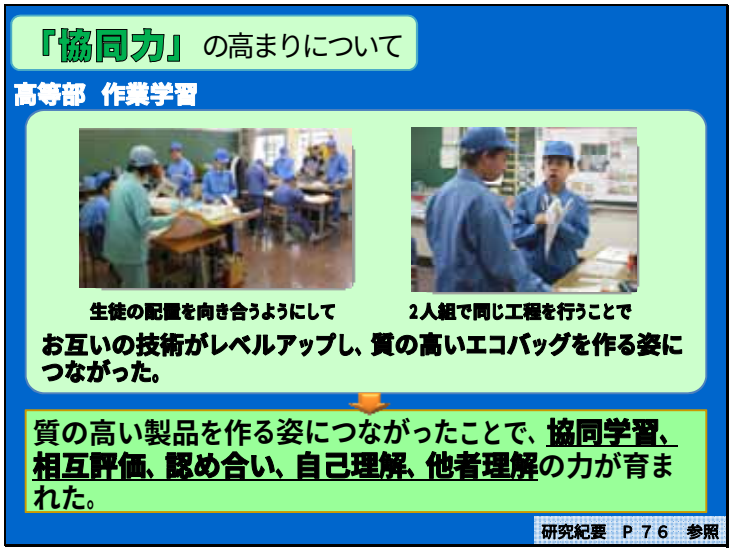
スライド 21



課題を解決する力「課題解決力」の高まりについてです。

中学部チャレンジタイム・クラスタイムでは、
ランニングなどの活動において、
目標タイムの達成状況を
週末の帰りの活動時に自分で評価して、振り返ることで、
自分で決めた目標タイムを意識しながら、
歩かないで続けて走る姿や周囲の友達のペースに左右されないで、
自分なりの一定のペースで走る姿が見られました。
達成すべき目標に対し、自分で解決する力へつながる、
自己評価、自己の向上心、前向きな課題への取組の力が育まれたと考えます。

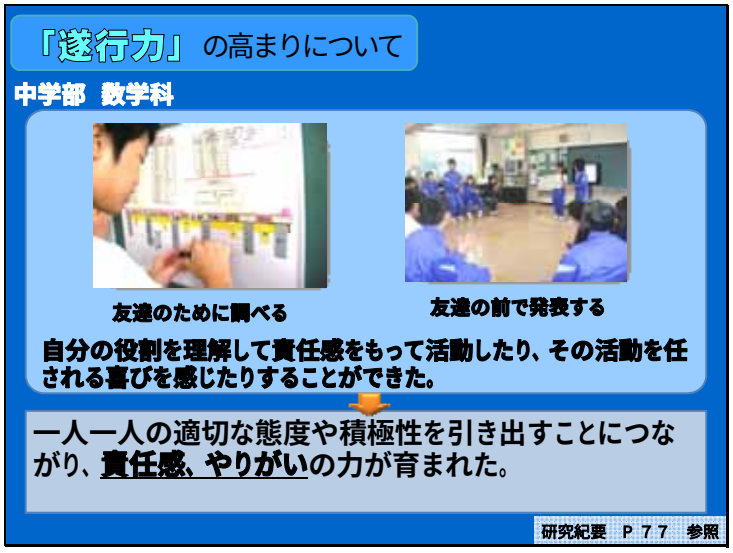
スライド 22



協同する力、協同力の高まりについてです。

高等部作業学習では、
生徒の配置を向き合うようにしてお互いの作業の取組を見て、頑張りを認め合ったり、２人組で同じ行程を行うことで、やり方の見本を見せたり、きれいに作るポイントを教えたり、作業の仕上がり具合を確かめたりすることで、
お互いの技術がレベルアップし、質の高いエコバッグを作る姿につながりました。
お互いの頑張りを認め合ったり、友達同士で教え合ったりしながら活動に取り組み、
質の高い製品を作る姿につながったことで、協同学習、相互評価、認め合い、自己理解、他者理解の力が育まれたと考えます。

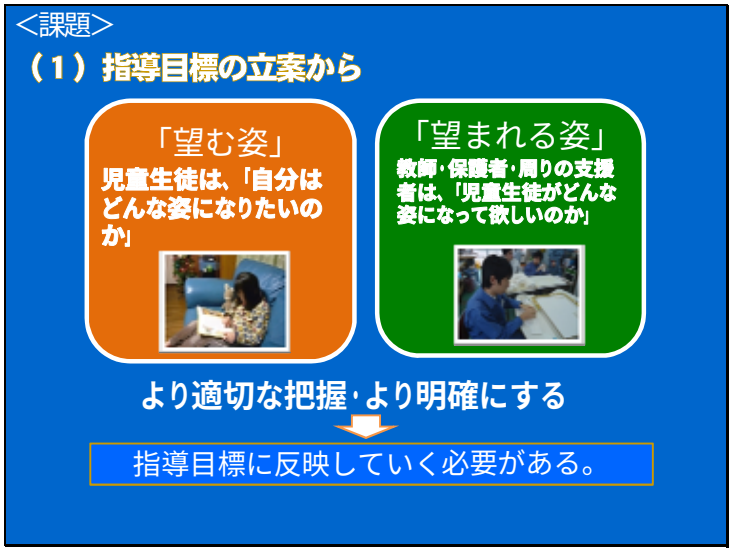
スライド 23



やり遂げる力「遂行力」の高まりについてです。

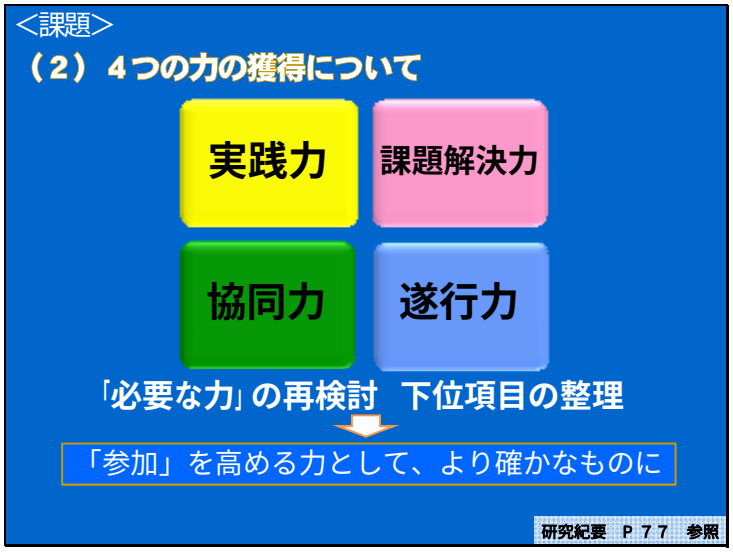
中学部数学科では、
校外学習時の目的地への行程を学部の友達のために調べることで
「友達のために正確な時刻を調べよう」という責任を感じ、積極的に学習に取り組む様子が見られました。
自分の役割を理解して責任感をもって活動したり、その活動を任される喜びを感じたりすることが、
一人一人の適切な態度や積極性を引き出すことにつながり、責任感、やりがいの力が育まれたと考えます。

スライド 24



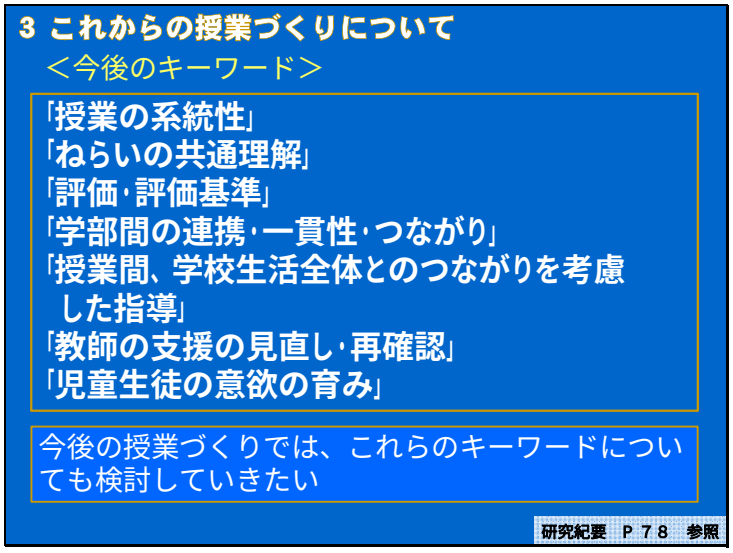
次に課題についてです。
（１）指導目標の立案から
今後も望む姿・望まれる姿を個別の教育支援計画に反映できるように、
児童生徒の望む姿をより適切に把握したり、
保護者や支援者などにアセスメントを行い、望まれる姿を
より明確にしたりして、
指導目標に反映していく必要があります。

スライド 25



２つめは、４つの力の獲得についてです。
「参加」を高めるために、必要な力として、今年度は、「実践力」「課題解決力」「協同力」「遂行力」の４つを考えました。
今後は授業づくりを行いながら、「必要な力」の再検討や、それぞれの力の下位項目の整理を行い、「参加」を高める力として、より確かなものとしていきたいと考えています。

スライド 26



最後に、３　これからの授業づくりについてです。
１年間の研究を終え、
キャリア教育の視点の共通理解を図るための
話し合いの中で、いくつかのキーワードが見えてきました。
「授業の系統性」
「ねらいの共通理解」
「評価・評価基準」
などの新たなキーワードが見えてきました。
今後の授業づくりでは、これらのキーワードについても検討していきたいと考えています。

スライド 27

なお、昨年度までの研究の成果をまとめた書籍が、
2月5日に刊行されました。
本校で行っている授業づくりについての具体例を掲載していますので
ぜひご一読ください。

以上で　研究概要報告を終わります。ありがとうございました。